

<b>【科目名】</b> 地域リハビリテーション論		<b>【担当教員】</b> 田村 茂 高橋 洋
<b>【授業区分】</b> 専門分野（地域理学療法学）	<b>【授業コード】</b> 3-18-0695-0-1	(メールアドレス) (田村) spkd8d69@chime.ocn.ne.jp (高橋) hiros hit@nur05.onmicrosoft.com
<b>【開講時期】</b> 3年次 後期	<b>【選択必修】</b> 必修	(オフィスアワー) (田村) 授業開講日、非常勤控室で対応 (高橋) 月、火、木、金 8:00～17:30
<b>【単位数】</b> 2 単位	<b>【コマ数】</b> 15 コマ	
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件) よくわからない病人、また終末期の病人にどう関わるかを考えて下さい。機会があればどう関わって欲しいかたずねて下さい。  (受講のルールに関わる情報・予備知識)		
<b>【講義概要】</b> (目的) 障がいをもつ人・高齢者が地域社会で生きがいを感じながら自らの人生を主体的に生きることを支援するために保健・医療・福祉の動向を踏まえて、多面的な学習することを目的とする。 (方法) 講義、グループワークそして実技		
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> ・地域リハビリテーションについてまたその中での理学療法士の位置づけを理解すること。 ・生活場面（在宅・介護福祉施設など）で理学療法士の具体的役割を理解する。 <b>【行動目標(SBO)】</b> ・地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割を考え具体的に取り組むことができる。		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>		
<b>【参考書】</b> 大田仁史：「地域リハビリテーション論」三輪書店 2004年 広井良典：「ケア学」医学書院 2001年 「介護期リハビリテーションのすすめ」青海社 2010年		
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定の GPA 制度に従う。 成績評価は、期末試験およびレポート点により評価する。		

平成 26～28 年度入学者用

【達成度評価】		試験	小テ スト	レポ ート	成果発 表	実技	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		60		40					100点
評価 指 標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造 の力			40					40
	コラボレーションとリーダー シップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿 勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運 営方法	学修課題(予習・復習) 時間(分)	
1	医療とは 在宅医療のながれ	講義		
2	地域リハビリテーション 定義：活動の歴史	講義		
3	ケアマネジメントの基礎	講義		
4	ICIDH と ICF	講義		
5	ベッドサイドでの介助法 (福祉用具を用いない場合)	実技		
6	ベッドサイドでの介助法 (福祉用具を用いない場合)	実技		
7	ベッドサイドでの介助法 (福祉用具を用いない場合)	実技	復習レポート	
8	福祉用具を用いた介助法	実技と講義		
9	福祉用具を用いた介助法	実技と講義		
10	福祉用具を用いた介助法	実技と講義	復習レポート	
11	終末期リハビリテーション がんと非がんへの対応	講義		
12	ADL と QOL そして NBM まとめ	講義		

平成 26～28 年度入学者用

13	特別養護老人ホーム症例（高橋洋）	講義		
14	特別養護老人ホーム症例（高橋洋）	講義		
15	PT の地域における開業例（高橋洋） 在宅訪問活動のこつ	講義		

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の 3 倍)に含むべき時間を示します。